

ぶっこういせき

## 仏向遺跡

(横浜市保土ヶ谷区No.84 遺跡)

調査期間 20071001～20071030

所在地 横浜市保土ヶ谷区  
仏向町 845-1 ほか

時代 縄文、弥生、古墳



更新日:20080925

### 概要

本調査は、独立行政法人都市再生機構神奈川地域支社による、仏向町団地建替事業に伴う発掘調査です。相鉄線

和町駅の南方約450mの地点に位置し、<sup>かたびらがわ</sup>帷子川右岸に形成された海拔標高約40m代の台地上平坦面にあたります。仏向遺跡は、縄文時代～古墳時代にかけての集落址・墓址として従前より認識され、試掘や範囲確認を含めると、過去5次にわたり調査が行われています。

2007年度の調査では、弥生時代中期の

ほうけいしゅうこうぼ

方形周溝墓群の一部を検出しました。この遺構は四隅切れの方形に掘られた溝の内側中央付近に、主たる埋葬施設の土坑を掘り込んだもので、一群を為す様に築かれる傾向が認められます。今回確認した3基の方形周溝墓も、その配置から隣接するようにして連続構築された様子がかがわれ、うち1基は調査区の端で主体部を検出することが出来ました。

弥生時代の遺物は方形周溝墓の溝底面近くから、胴部以

<sup>つぼがた</sup>上を欠いた壺形土器が一点出土しています。この土器はやや小振りで文様が施されていませんが、形態上の諸特



▲試掘坑での遺構検出状況



▲弥生時代中期 方形周溝墓群

みやのだい  
徴から、弥生時代中期後葉の宮ノ台式土器と考えられます。

縄文時代の遺構は確認できませんでしたが、遺物包含層からは縄文時代中期以降の土器が破片の状態で出土して

います。これらの土器の中では、特に中期後葉の加曾利E

そり  
式や、それに併行する曾利式土器などがみられます。

仏向遺跡の所在する台地上と周辺一帯では、旧石器時代から中近世にわたる遺跡の分布が認められますが、詳細な内容は明らかではありません。今回の発掘調査は100㎡程度の僅かな範囲を対象としたものですが、帷子川流域における弥生時代の遺跡の様相が明らかになった数少ない調査事例の一つであり、周辺遺跡との相互比較・検討が出来る貴重な資料を呈示することが出来ました。



▲方形周溝墓 土器出土状況